

## 公開シンポジウム 港町の再生、日本と世界 -酒田港を人間のための空間として考え直す- が開催されました

10月31日（月）、東北公益文科大学で、酒田港に関する公開シンポジウムが開催されました。

このシンポジウムは、東北公益文科大学の温井亨教授が中心となり、「酒田港を人間のための空間としてデザインする」をテーマに開講している特別講座「まちづくりデザインスタジオⅢ」の一環で開催されたものです。

基調講演では、NHK「ブラタモリ」に7回出演している岡本哲志都市建築研究所代表の岡本哲志先生が、これまでの調査研究を紹介し、「もっと水辺を意識させる。もっと行きたいところにする。酒田は潜在的な魅力は高いのに、生かしきれていない。」「横浜は歴史遺産は少ないが、うまく使っている。残っているものを効果的に使えば、魅力的になる。」「酒田は港と町とで構成されてきた。本来の港町の姿を取り戻すべき。」などの提言をされました。

続いて、当事務所の上原所長より、「我が国の港湾政策とみなとまち酒田の再生」と題した講演を行い、日本の港湾政策の変遷、酒田港の歴史と再開発、酒田港での最近の取り組みなどを紹介し、これからの取り組みとして「地元の人が気付いてない魅力を活かす。港町“らしさ”を活かす・創造する。」などの意見を述べました。

その後のパネルディスカッションでは、岡本先生から「クルーズ船で来た旅行者を別の船で山居倉庫に上陸させてはどうか。面倒なことをやると魅力が増す。乗り換えることこそが重要。」などの提言がありました。

酒田港湾事務所では、酒田港を含む山形県内の港湾の発展に向けて、地域の皆様とともに取り組んでまいります。



岡本先生



上原所長



パネルディスカッション

